

## 解答

- 問一 A E B I  
 問二 心のやわら  
 問三 クロを飼い続けられず手放さなくてはならないのが、心残りですらい気持ち。  
 問四 b  
 問五 1 オ 2 イ 3 ウ 4 カ  
 問六 最初はカメが井戸のようなせまいところにいるよりも、広いところに放した方が喜ぶだろうと思っていた。  
 問七 ウ  
 問八 石ころの目  
 問九 瀕死のカナブンをあとほんの少しだけ生きながらえさせる手助けをすること。  
 問十 自分自身が今にも死にそうなカナブンになって、迫り来る自らの死を実感すること。  
 問十一 ア  
 問十二 ウ  
 問十三 (1) 自分の感覚から離れ、魂を持つ対象そのものになりきって、その気持ちを考えられる感覚。  
 (2) 物語が人間の視点だけの主観的な見方で、深みのない作品になることを防ぎ、自然界の多様なものの立場から描く、膨らみのある作品に仕上がるように生かされている。

- 問一 春  
 問二 ひばりの胸毛についてきた種がこの淋しい草原でこぼれたために、  
 菜の花がここで咲いてしまったと知ったから。  
 根  
 菜の花の、暑さや乾燥でしなだれる様子。  
 ウ  
 ア 小川の流れに沿って自分が走り菜の花を見守ろうとするという考え。  
 エ 自分について走る小娘の鼻に玉のような汗が飛び出しているのを見て、  
 小娘の疲れを心配する気持ち。  
 問三 イ  
 問十 今の頼みを聞いてくれなかったし、自分の言葉で小娘が走るのをやめてしまうかもしれないと思ったから。  
 問十一 エ  
 問十二 恐怖に顔を青ざめさせる様子。  
 問十三

- 三  
 問一 可否 (1)  
 受容 (2) 圧巻  
 問二 じゃっせき (6) 一律 (7) 干潮 (8) 輪唱  
 かくさく (3) 発揮  
 右往左往